緑のクリスマス

つくばみらい市立陽光台小学校　四年
曾 泰霖

ぼくはサンタさんに一つだけ望みをかなえてもらえるとしたら、家の周りの緑を増やしてほしいです。理由は、以前は空きちだったところが、今では住宅で埋めつくされているからです。ぼくは、住宅だって必要だけれど、空き地などの生き物が住む場所も必要だと思います。

なぜなら、生き物や動物たちのすみかがなくなってしまうと、絶滅危惧種などが増えてしまうからです。どのくらい増えているかというと、二億年前は千年に一種絶滅していたけれど、今では一年に四万種以上も絶滅しているそうです。この星には、人間の他にも生き物や動物たちがたくさん暮らしているので、ぼくたちは食物連鎖のバランスを考えて行動しなければならないと思います。つまり、この星は丸ごと「人間の星」とは言い切れないのです。

また、動物以外にも、木などの緑がなくなると、地球上の二酸化炭素が増えすぎてしまい、反対に酸素が減ってしまいます。そうしたら、地球温暖化がさらに進んでしまうかもしれません。人間がこのまま緑を破壊し続けると、この星は「死の星」になってしまうのです。

これらを解決する方法が一つだけあります。それは、木を増やし、動物の住める豊かな自然を作ることだと僕は思います。そして、ごみなどを燃やさず、リサイクルしたりして、森の木の肥料にし、地球温暖化などの影響が出ないようにすべきです。例えば、ぼくの家では、生ごみを庭のブルーベリーやヒマワリの根元に埋めて、肥料にしています。すると、ブルーベリーは大きくて甘い実がたくさんなりました。また、ヒマワリはとても美しい、大きな花を咲かせました。このような簡単な工夫をするだけで、環境にやさしいことができるのです。

ぼくは自然と生き物が大好きです。だからサンタさん、ぼくに緑を守る力をください。

わたしが里山で学んだこと

土浦市立土浦第二小学校　四年
松下 奈央

わたしは、週末、里山の田んぼの学校に行きます。そこで米作りをしていると、たくさんの生きものの気配を感じます。

どろの田んぼに足あとがついていて、「鳥かな。」とわたしが言ったら、田んぼの学校のあべさんが、「野うさぎだよ。」と教えてくれました。ここに、うさぎがいるんだと思うとわくわくしました。

あべさんが山のむきだしのしゃ面をさして「穴がみえるかな。大きいほうの穴はモグラ。小さいほうの穴は赤ねずみのだよ。」と言いました。モグラは絵本でしか見たことがありません。穴からヒョッコリ出てきてくれないかなと思いました。そして、ネズミ色でも白色でもなく、赤色のネズミがいることにびっくりしました。

わたしは、家に帰って、さっそく図かんで赤ネズミのことを調べました。「えー、茶色やん。」とつぶやいたら、お母さんがのぞいてきて「赤茶色やね。」と言いました。

里山で男の子が虫をつかまえて、「これ、持って帰ってもいい？」とあべさんに聞いていました。「ざい来種だから、ここにおいてあげて。外来種だったらとってもいいよ。」と言っていました。

わたしは、どうしてとってもいいものとダメなものがあるのかわかりませんでした。

そこで、わたしは、ざい来種は昔からここでいきているもの、外来種は外からきたいきものであること、外来種はざい来種の生活をおびやかすそんざいになっていることを知りました。

そうか、自ぜんを守るためにざい来種をむやみにとっちゃいけないんだ。そして、育てきれなくなった外来種のペットを自ぜんにはなしちゃダメなんだと思いました。わたしは自ぜんを守りながら生きものを大切にすることを学びました。